

人生は「本物」を探す旅

米富大祐[†]（ロッキー動物病院・大阪市獣医師会会員）

人生は「本物」を探す旅であると私は思っている。しかしながら、いい加減な物や手抜きが多い世の中、自分自身も今の仕事に全力を尽くさない限り「本物」の仕事に出会えないものだとも思う。卒業して3年半が経とうとしている。多くの方々のご指導があったからこそ現在があると思っている。

獣医学部3年の夏、私はアニマルランド北島動物病院（北海道江別市）の北島哲也院長の門を叩いた。診療の流れについて、右も左も知らなかった私が見たものは、北島院長の飼い主の立場に立った丁寧な説明と、使う言葉の選び方だった。要求するレベルは「そこまでやるか」と思うほど厳しかったが、今では当然のことだと感じている。消費者（飼い主）が求めているものは、サービスをする側が考えている以上にはるかに高い。今でも私の診療には「北島イズム」が根底にある。私が今後について悩んでいたとき、北島院長から1通のメールが届いた。「貴方につただけ最後かも知れない意見をしたい。もう逃げるのはやめて開業しなさい。それとも、学位を取得して教育者になりなさい。早くどちらかを決めないと本当に後悔するぞ。」この言葉で北島院長と同じ道を進もうと決めたのかも知れない。

大学では、中出哲也教授（酪農学園大学・伴侶動物医学教室）のもとでMRIの研究をさせていただいた。私は、日々の診療で得た知見をいつか公の場で発表したいと考えていた。獣医学部5年の秋、札幌での症例検討会への発表を希望した。中出教授は細部に至るまで丁寧に指導下さった。獣医学部6年の夏、韓国・ソウル大学で画像診断学のセッションが開かれることを聞き、海外での発表となった。結果はベストプレゼンテーション賞。明け方まで先生とソウルの料理店で喜び話したことを思い出す。論文投稿もご指導いただいた。肝特異性MRI造影剤EOB・プリモビスト[®]の臨床応用に関する論文で、アメリカのVeterinary Radiology & Ultrasound誌に掲載が決まった。最初にレフリーから返ってきたコメントは100以上。一つ一つ解決していく過程は気が遠くなる作業であったが、中出教授は「何も心配することはないぞ」と結果を知っていたかのように指導して下さいました。アクセプトの知らせが来るまで約1年のやりとりだった。私がかじけそうになったときには、いつ

も「はっ」と驚かされる洒落を飛ばし、一気にその雰囲気と和む。中出教授は、数多くの先生方や学生に愛され慕われる真の人格者だ。

卒業後、縁あってお世話になったのはロッキー動物病院（大阪市）の蔵所宏好院長である。私は蔵所院長のお人柄に惹かれた。院長は、私が独立・開業を考えていることに十分理解を示して下さいました。今の時代では短期間だとは思いますが、開業させていただくだけの最低限の知識・技術はつけて下さったと思っている。蔵所院長も私の願いをかなえて下さり、数多くの演題発表や論文まで出させていただいた。蔵所先生は、私の「岐阜大学でより見識を広げたい」という希望に対して、丸尾幸嗣教授（岐阜大学動物病院・腫瘍科）のもとへ研修のお話も取りつけて下さった。

そこで見たものは、私が持つ大学病院のイメージとは違う診療の進め方であった。腫瘍の治療は、外科治療、化学療法、放射線治療のいずれもがバランス良く連携されることで、良質な集学的治療が行える。これらがスムーズに手際よく進められている現場をみて、飼い主にとってベストの施設がここにあると感じた。めずらしい症例はもとより、1日の診療件数が非常に多かった。丸尾教授は岐阜大学比較がんセンターを立ち上げられている。動物医療の先に、人の医療の進歩に獣医学が貢献すべきだという究極の形を見据えたビジョンがある。私は、物腰柔らかい丸尾教授の瞳の奥に、燃え上がる野望をいつも感じている。森 崇准教授（岐阜大学動物病院・腫瘍科）の指導の下、岐阜大学でも症例発表の機会をい

米富大祐

— 略 歴 —

- 2009年 酪農学園大学 獣医学部
獣医学科 卒業
- 同 年 ロッキー動物病院
(~2012年)
- 2011年 岐阜大学 応用生物科学
部 附属動物病院
(現在に至る)
- 2012年 よねとみ動物病院 (兵庫
県西宮市) 開業



[†] 連絡責任者：米富大祐（よねとみ動物病院）

〒663-8113 西宮市甲子園口2-10-30 ☎・FAX 0798-64-4103 E-mail : ydaisuke@skyblue.ocn.ne.jp

ただいた。昨年の動物臨床医学会では最優秀賞という大変名誉な賞をいただいた。森先生はいつも素早い決断、いわば「やるか、やらないか」といえば「今やる」という姿勢だ。一般病院ではみることのできない貴重な経験が日々の診療に大いに役立っている。

今のこの国は、仕事においても勉強においても少ない努力で効率よく見返りを得ようとする時代となってしまった。自身を極限まで切り詰め、限界まで究めた瞬間こそ、人を感動させる知恵が生み出され、良い仕事があ

き、消費者が心から納得する製品（サービス）が創り出されるのだと思う。現状を周囲のせいにするのではなく、世のため人のために何が必要かもっと考えて働かなければならない。これからも今まで出会った方々のような「本物」の仕事を探し求めていきたい。

最後に、これまでの無謀ともいえる挑戦を支えてくれた家族、私の希望をかなえて下さった多くの方々にこの場を借りて深謝する。